



平成29年 松山市立子規記念博物館 「石丸繁子書道展」パフォーマンス

御後援各位殿

拝啓 皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

松山市立子規記念博物館における「石丸繁子書道展」につきましては、いつも格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、第12回「石丸繁子書道展」は、松山市立子規記念博物館（特別展示室）におきまして11月18日（日）から11月24日（土）まで開催いたします。

今展は、「子規の生」と題し、明治34年・35年の俳句と短歌を作品にいたしました。

その俳句と短歌は、随筆「墨汁一滴」・「仰臥漫録」・「病牀六尺」の中から選びました。

子規は、「痛いことも痛いだが、、、泣くかわめくか、、、」と叫びながら、自己の病床のありようを客観的に捉えた句や歌を数多く残しました。この最後の二年は、死を目前にし「希望」「楽」「自由」が奪い去られ「零」の時期に近づいていたのです。

この作品制作の過程において、子規の悲痛な叫びが私の耳から離れることはありませんでした。

そして、子規の「生」への執着が、強靱な精神力を示唆し、書表現において私を鼓舞しエキサイティングさせてくれました。

会期中は、毎日午後2時から作品解説・パフォーマンスを予定しております。

つきましては、御後援をいただき名義使用をご承諾いただきたく、別紙の「企画書」等必要書類を添えお願いいたしたく存じます。どうか、ご査収いただきますようお願い申し上げます。

草々

平成30年9月吉日

繁企画代表 石丸繁子